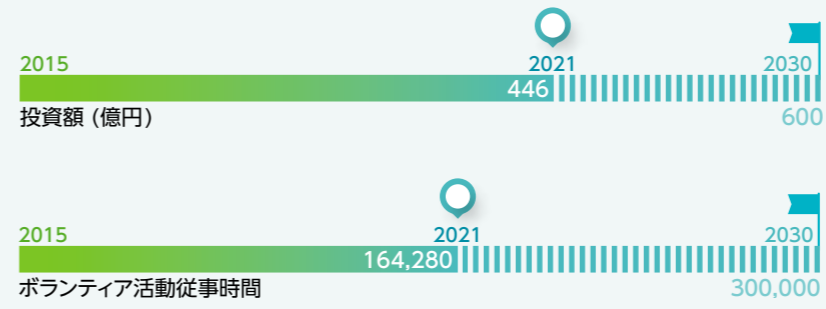


加工食品事業におけるサステナビリティ

注力分野	目指す姿	中期取り組み目標 (KPI)	各目標に対する進捗	関連するSDGs
お客様の期待を上回る製品・サービスの提供	私たちは、品質と技術に拘った製品を通じてお客様ニーズに応え続け、満足と信頼を獲得します。	Quality of Life (QOL) の向上 多様化するお客様のニーズを捉え、“健康”“利便性”“多様性”などを追求した、付加価値の高い製品の開発、提供を目指します。	調理・喫食に食器を必要としない簡便性の高い製品を計3品発売しました。また、冷食・常温および調味料・ベーカリーの各事業において、減塩や乳酸菌使用など、お客様の健康志向にお応えする製品を計10品発売しました。	
		働きがいの向上 やりがいを感じられる、働きやすい職場づくりや人材育成強化を推進することで、従業員の更なる働きがいの向上を目指します。	日数制限のない在宅勤務、コアタイムを設けないフレックスタイム等の制度を浸透・定着させました(在宅勤務可能拠点において約7割の従業員がテレワークを利用)。また、2021年度は、コミュニケーションの充実を目的とした勉強会や研修を実施しました。	
		ゼロ労災 労働災害ゼロを目指し、労働災害件数を2025年までに25%、2030年までに50%削減します。(基準年:2018年)	20万時間当たりの労働災害発生件数は、2018年の0.90から2021年は1.12となり、24%増加しました。本結果を踏まえ、労働災害再発防止策の徹底、また、従業員一人ひとりの安全意識向上を図り、労働災害ゼロに向けた取り組みを強化していくこととします。	
人財への投資	私たちは、従業員が安心して働ける職場づくりに取り組むとともに、企業価値の向上に寄与する人財の継続的な育成に努めます。	地域社会への貢献*1 包摂的かつ持続可能な地域社会の発展を目指し2015年から2030年の間に、600億円の投資を行い、従業員が30万時間のボランティア活動に従事することを目指します。	2015年より、地域社会へ446億円を投資し、従業員は勤務時間内に164,280時間のボランティア活動に従事しました。	  
		安心で信頼できる企業ブランドの醸成 国際規格の食品安全マネジメントシステムの運用徹底等の安全管理を推進し、食の安全性の向上を図るとともに、品質に関するコミュニケーションを充実させ、お客様の安心感と信頼感の向上に繋がります。	自社および委託先工場の定期的な監査を確実に実施いたしました。また、社内研修の場を活用し、従業員の品質管理に対する意識向上を図るとともに、社内ネットワークを活用してお客様の声と向き合える環境を整えています。	
		環境配慮型包材活用の推進 製品を通じた環境負荷の軽減を目指し、枯渇性資源を低減し、再生可能な植物由来の有機資源の活用を推進します。	プラスチック原料の使用量およびCO ₂ 排出量の削減を目指し、冷食・常温および調味料・ベーカリーの各事業において、冷凍食品4品の内装フィルム廃止や包材使用量の削減、イートイン使用時のドリンクストローの素材変更(通常品と比較してCO ₂ 排出量を23%削減できるバイオマスストローへの変更)等の取り組みを実施しました。	  
持続可能なサプライチェーンの構築	私たちは、環境・社会面でのリスク低減に取り組み、お客様に安全で安心いただける製品を継続的にお届けします。	廃棄物発生量 廃棄物発生量を、毎年、生産量原単位*2で前年度を基準とし年平均1%削減します。(国内事業所)	2021年の廃棄物発生量は、生産量原単位で2020年度を基準に0.71%削減となりました。	
		温室効果ガス排出量 2030年までに事業活動由来の温室効果ガス排出量を2015年比28%削減します。	2015年比で事業活動由来の温室効果ガス排出量を22%削減しました。	



なお、2022年2月の「JTグループ環境計画2030」の更新に伴い、以下の通り目標を更新し、その進捗については、2023年より開示する予定です。
 JTグループとして掲げている環境計画2030のGHG削減に貢献します。
 (Scope1&2:2019年比47%削減、Scope3 カテゴリー1:2019年比28%削減)

*1 「地域社会への貢献」における目標はグループ全体の目標
 *2 原単位=廃棄物発生量/生産量